

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

公表日: 令和6年 1 月 31 日

事業所名:そらいろ

サービス種類:(放課後等デイサービス)

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	室内での活動スペースは十分にとれている。現在利用はしていないが、別室に個別で対応できる学習スペースもある。	はい・・・90% わからない・・・10%	活動に合わせて、室内のスペースを確保できるよう、対応していく
	2 職員の適切な配置	適切に配置している。	はい・・・80% わからない・・・20%	利用者に合わせて、適切に対応していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	階段や段差はあるため、支援が必要な利用者には必ず職員が支援を行うようにしている。	はい・・・70% わからない30%	室内の環境の中で、一日の予定を掲示し、見通しをたてやすく、環境を作っている。現状の中で最良な環境を整えていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日清掃を行い、月に一度点検シートをでチェックしている。	はい・・・100%	現状の中で、清潔な空間づくりを行っていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	毎朝ミーティングの時間を設け、情報共有の時間を作っている。月に一度は職員のミーティングの時間を設け、一か月の振り返るなどを行う時間を設けている。		今後も継続して行っていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	外部評価の実施・予定なし。		外部評価の実施予定はない。今後必要に応じて検討していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	外部にも依頼し、事業所内でも研修の時間を設けている。外部に研修に行けるよう職員にも促している。		今後も必要な研修会等の積極的は積極的に参加していく予定。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者の方と面談をしたうえで、個々のニーズや課題を整理し、話し合いで分析をし、一人ひとりにあった個別支援計画の作成に努め、発達支援につながるよう取り組んでいる。		引き続き個々に応じた計画を作成し、職員間で共有していく。ニーズの変更があればその都度相談し、計画も随時変更できるようにしていく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個々にあった支援方法を考えたり、プログラム内容を工夫している。	はい・・・100%	今後も継続して行っていく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	到達目標を決めて、それぞれの支援内容を記載している。		継続して詳しく記入、更新していく。
4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	担当者会議で到達目標・支援内容を確認し、計画に沿った支援を行っている。	はい・・・100%	今後も継続して行っていく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供(続き)	5 チーム全体での活動プログラムの立案	週ごとの担当を決め、その担当が主体になりながら、全体で話し合い、活動のプログラムを作っている。	はい・・・90% どちらともいえない・・・10%	今後も継続して行っていく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日・長期休暇ともに療育プログラムは大切にしているが、平日にはできにくい、外出等を休日に取り組めるよう支援を行っている。		今後も継続して行っていく。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	週ごとに療育プログラムを設定しているが、その担当に職員が主体になり、活動を考えている。できるだけいろいろな経験をしてもらえるように工夫しながら活動を行っている。		今後も、利用者が楽しめる活動を計画していきたい。いろいろな分野での経験をできるよう、情報収集にも力を入れていく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	朝にミーティングの時間を設け週の担当職員が主体的になり、療育の活動を話し合う時間を設けている。		今後も継続してミーティングを行い、一日の活動の確認を行っていく。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	一日の児童の様子を記載し、職員全員が見返せるようにしている。気になる点があればその都度話をする時間を設け、情報の共有に漏れの内容にしている。		必要な時には時間を設け、情報が共有できるようにしていきたい。継続して、ケース・業務の記入を行うとともに、引き続き朝のミーティング時の情報交換・振り返り等行っていく。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	業務日誌の記入・一人ひとりのケース記録の記入を行い、気になることを朝のミーティング時に話し合いを行っている。		今後も継続して、記録をしていく。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	定期的にモニタリング・担当者会議を設け、支援の見直しを行っている。		今後も引き続き行っていく。
1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	代表または、児童発達支援管理責任者が参加している。		必要に応じてふさわしい人が参加する。
2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備				
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	可能な限りの情報共有は行っている。		今後も、十分な情報共有をしていく。	
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	情報を共有できるための記録を残し、情報提供ができるよう努めている。		今後も情報提供ができるよう、記録を残していく。	
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	必要に応じて研修の受講をしている。		必要に応じて、研修の受講や連携を図っていく。	
	7 児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	地域との関りも必要だと考えているが、現在はできていない。	はい・・・30 いいえ・・・10% わからない60%	機会があれば交流を検討していきたい。	
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域の方への招待は行っていないが、見学希望は受け入れている。地域の方にも行事に参加してもらうなどの機会を設けている。		地域の方、ご近所の方との交流の機会もあり、行事に音楽を披露してもらうこともあり、今後も地域の方との交流も広げていきたい。	
	保護者への	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	利用契約時には必ず丁寧な説明を心がけて行っている。	はい・・・100%	今後も丁寧な説明ができるように心がけていく。
		2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	わかりやすく丁寧に説明するよう努めている。	はい・・・100%	今後も引き続き継続していく。
3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施		ペアレントトレーニングといえる支援は実施していないが、支援の助言等は適時行っている。	はい・・・60% いいえ・・・10% わからない・・・30%	職員の知識を深めて、保護者の方の疑問に答えられるようにしていきたい。	
4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底		送迎時に口頭にて、また、連絡帳を用いて当日の様子など、情報共有を行っている。	はい・・・90% どちらともいえない・・・10%	保護者の方と情報共有を密に行っていけるよう努めていく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
説明責任・連携支援	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	相談があった際は、適切な対応の助言を行っている。また、気になるときには来所してもらい、話をする場を設けている。	はい・・・90% どちらともいえない・・・10%	相談等があった場合は適切な対応を心がけていくよう努めていく。また、必要な場合は会議などの設定もして中で、解決できる方法を探していきたい。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者会を行い、保護者の方の連携をとれる場を作ったが、継続できていない。	はい・・・80% いいえ・・・10% わからない・・・10%	保護者同士の連携を図れる機会を増やせるように定期的に保護者会の開催を考えている。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情に対する対応整備はしている。	はい・・・50% わからない・・・50%	迅速かつ適切に対応している。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	特性に応じた視覚支援等を取り入れ、わかりやすく掲示する等の工夫をしている。保護者の方とのアセスメントの際に必要な情報を聞き、その子にあった方法を取り入れている。	はい・・・90% わからない・・・10%	保護者の方との情報共有を行い、引き続き、特性や状況に応じて対応していく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	行事については、予定表などで予定を伝えるよう努めている。また、SNSを利用し活動の様子を発信している。	はい・・・50% いいえ・・・10% わからない・・・40%	できるだけ情報発信に努めていく。SNSなどの利用も保護者の方にも発信していく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	文書化し契約時等で説明を行っている。	はい・・・90% わからない・・・10%	今後も引き続き継続していく。
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	必要なマニュアルは整備している。保護者に対しては口頭の説明のみになっている。	はい・・・70% わからない・・・30%	契約時に保護者にもわかるよう、説明を行っていく。職員に対しては確認しやすい場所に配置し、ミーティングなどで確認を行っていく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	月に1度避難訓練を行っている。	はい・・・70% わからない・・・30%	今後も引き続き、定期的に訓練を行っていく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	事業所内外の研修を行っている。		今後も引き続き継続していく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	契約時に保護者に説明することを心がけている。また、支援計画書にも記載し、その際にも再度説明している。		今後も引き続き適切な対応を行っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	該当事例はないが利用開始前のアセスメント時に保護者におけるアレルギーの有無の聞き取りに応じて対応している。		引き続き適切な対応を行っていく。
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例があった場合は報告書に記入し、ミーティングなどで情報共有を行っている。		ヒヤリハットの事例を振り返る時間を作ったり、全職員で再確認・再検討する時間を作る。